

# 家(いえ)の理論

家とむらも少しは知っとかなくちゃ

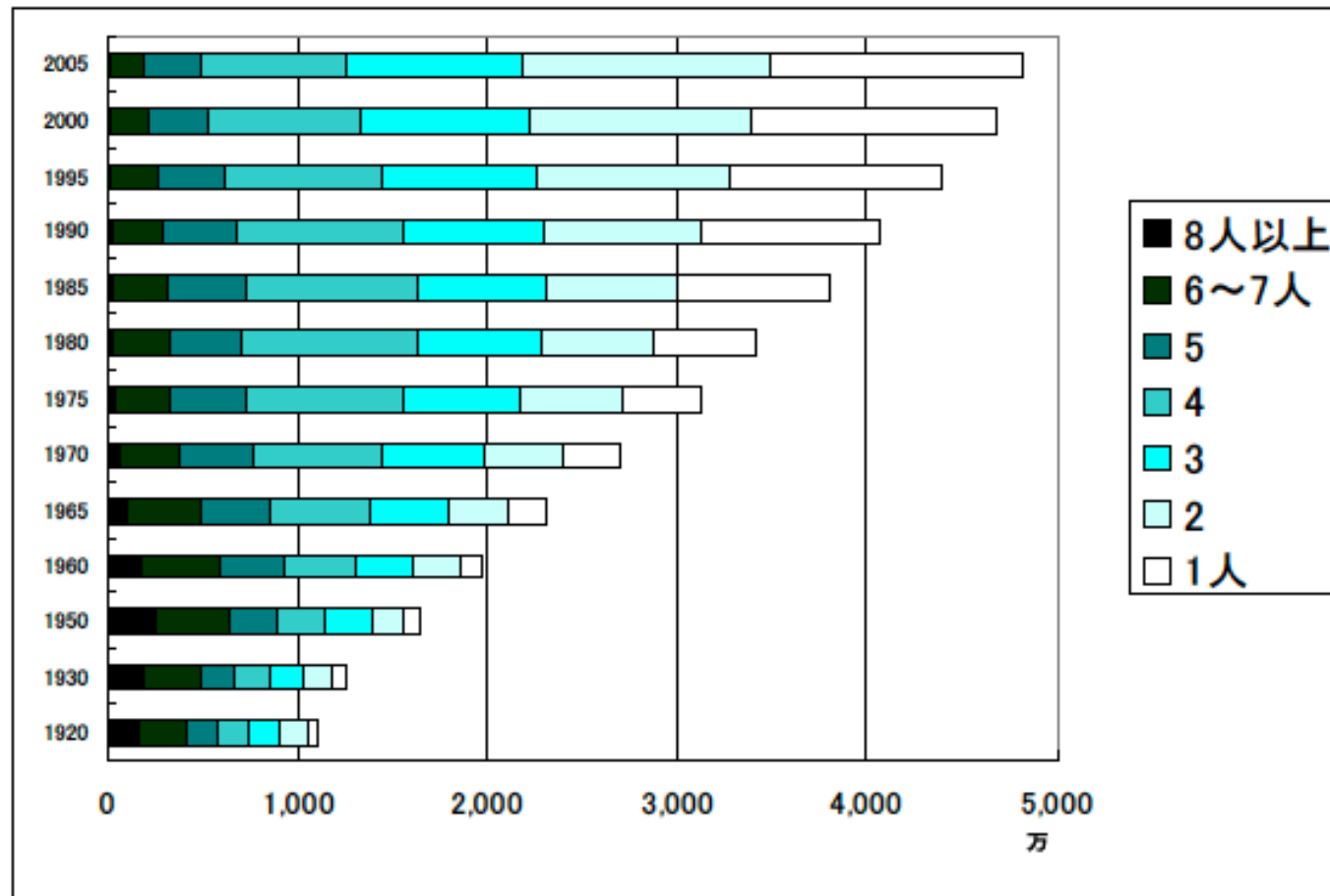
農村社会・社会学特殊研究

第6話

秋津元輝(農学研究科)

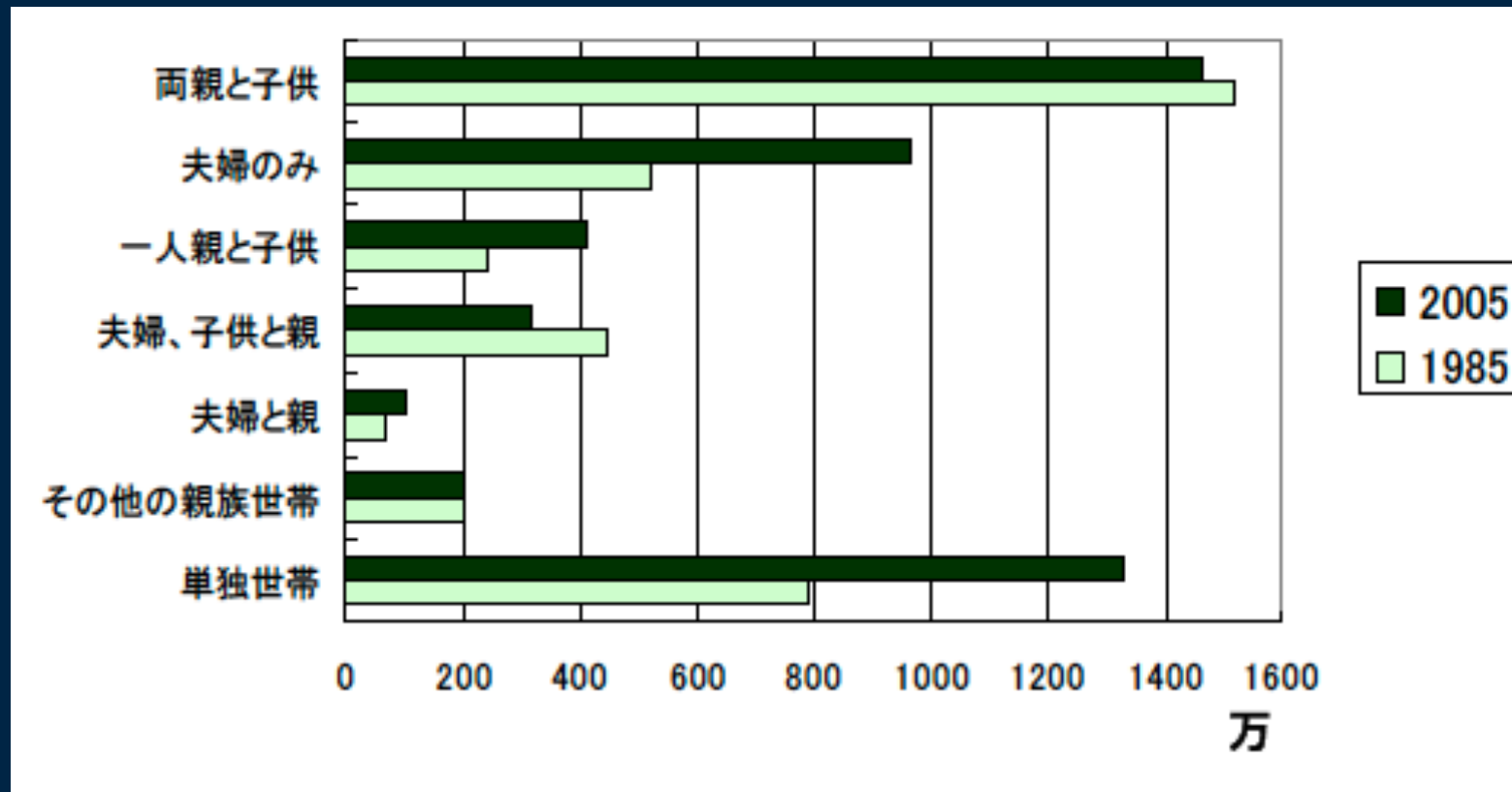
# 世帯員数別の世帯数の推移

図1 世帯人員別にみた世帯数の推移



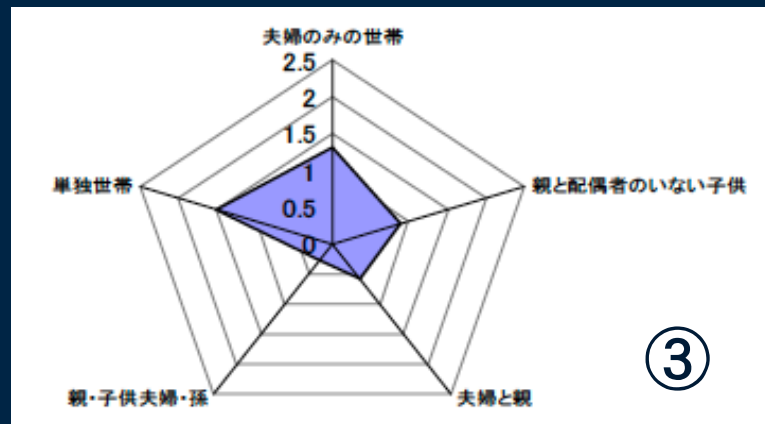
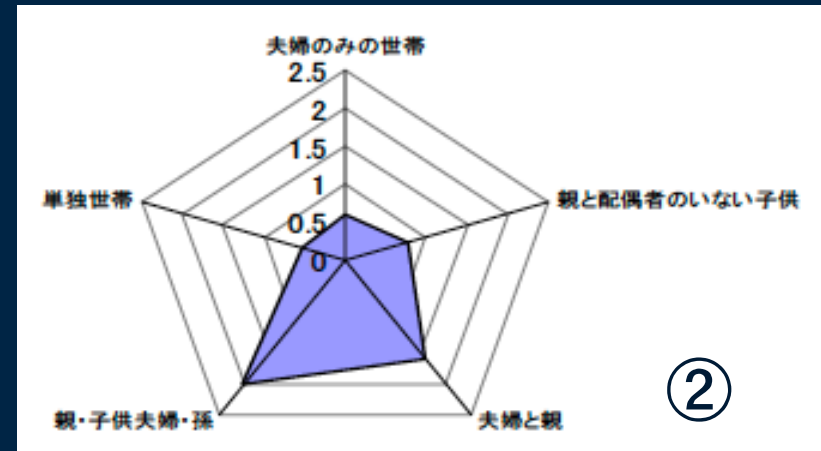
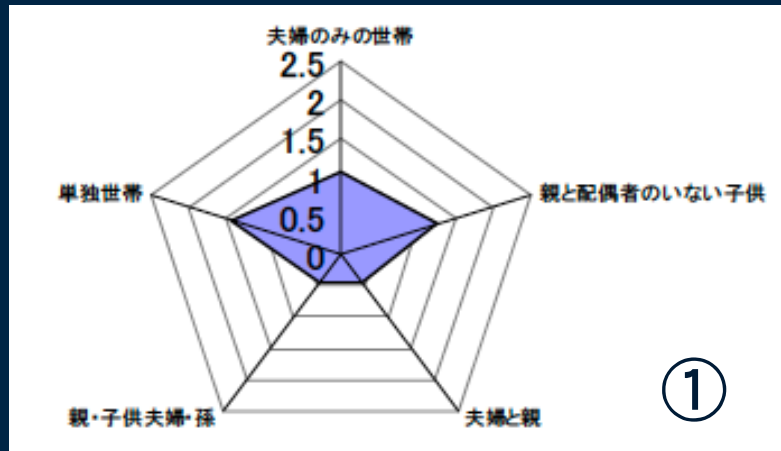
注 1980年までは普通世帯である。ただし、昭和25年は昭和25年定義の一般世帯である。

# 家族類型別世帯数(85年・05年)



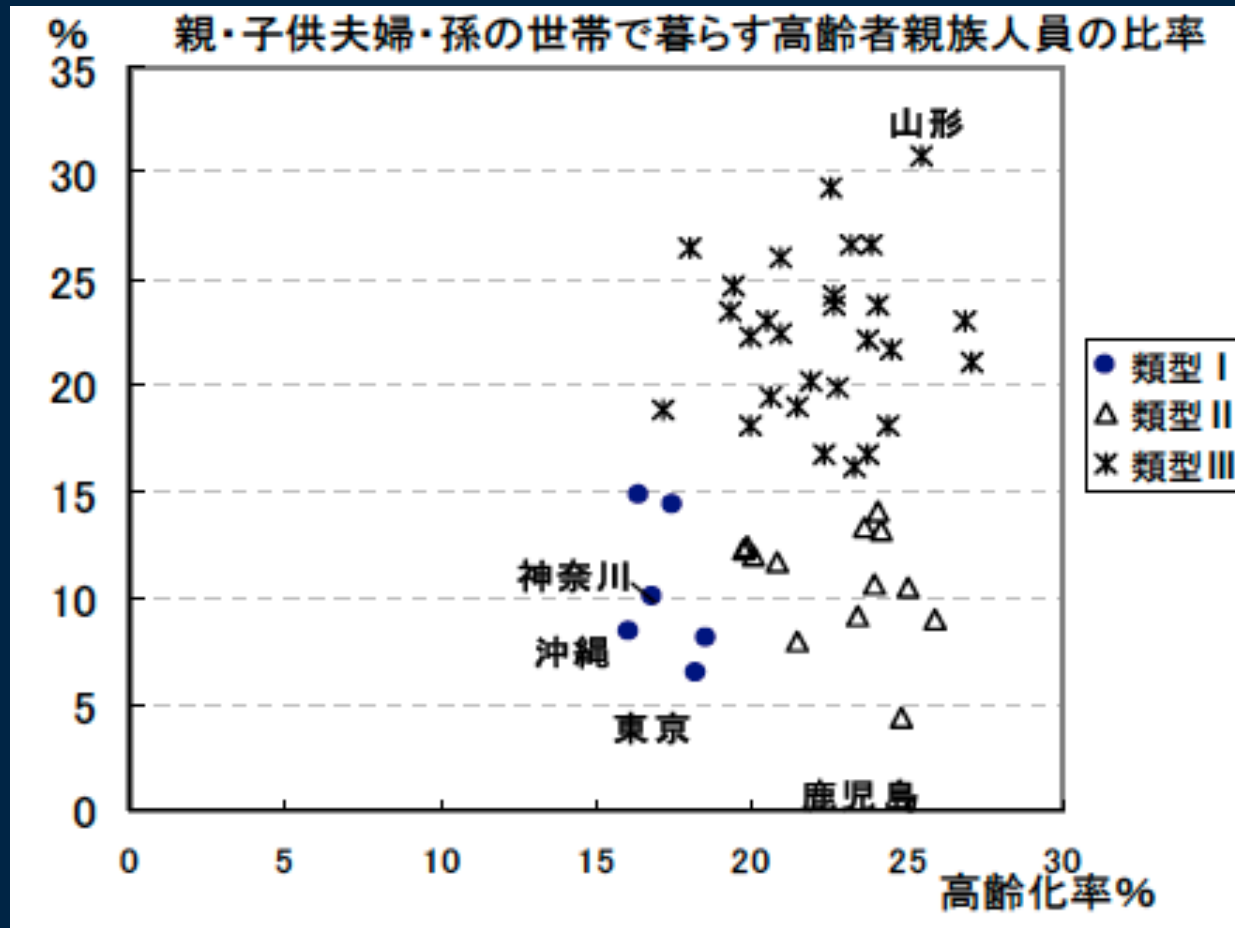
# 家族類型の地域差(05年)

東京・鹿児島・山形



グラフ中の数値は、特化係数(各都道府県における比率を全国の比率で除したもの)

# 3つの類型の分布



- I 東京型
- II 鹿児島型
- III 山形型

05年 国勢調査

# 親族研究の意義

- 人はひとりでは生きていけない
- つながるきっかけ
  - 現代においてどんなきっかけがあるだろうか
- もっとも根源的なきっかけとしての親族

# 家・むら研究と現代

- 研究の社会史
  - 研究のピーク
  - 戦後の民主化時代において
- 文化の規定力
  - 遺制とみるか、どうか

# 家族と家

- 「家族」
  - 西ヨーロッパ文化を背景としたことば
  - 通文化的用語
- 「家」
  - 家族の「特殊日本的形態」

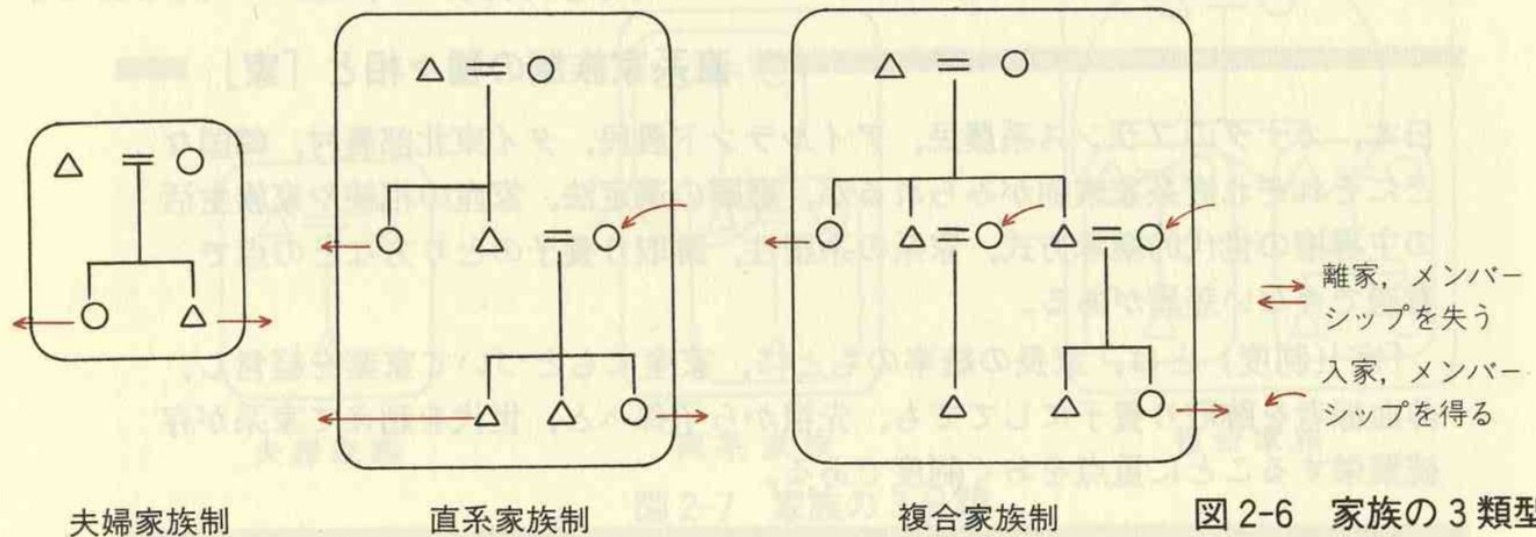


# 家の3つの特徴

- 家の財産としての家産・家業・経営体
- 祖先崇拜
- 家永続の願い

# 家族の3つの形態

- 夫婦家族、直系家族、複合家族



森岡・望月『新しい家族社会学(改訂版)』培風館、1983年、13頁

# 修正拡大家族

- 親の世帯と子の世帯
  - 拡大家族が分裂したもの
  - 一つの家族と考えてよいのでは
- 例
  - 近接居住
  - 過疎地の高齢者世帯

# 家は非親族を含みうる

- 養子などは親族である
  - 「親族」とは、血族と姻族
  - もともとから親族はfictitious
- 非親族とは
  - 住み込みの奉公人など
- 団体的性格をもつ

# 家族から親族へ

## 法律上の親族

- ・ 民法725条(親族の範囲)
- ・ 同 726条(親等の計算方法)
- ・ 同 727条・・・養子縁組は血族と同じとみなす
- ・ 同 728条・・・姻族関係の終了
- ・ 同 729条・・・養子縁組の離縁

# 法と慣習とのズレ

- 通文化的概念(または法律)としての「親族」の単位

VS

- 日本の親族組織の構成単位

# 家関係としての親族

- 同族

- 系譜によって構成される家々のまとめり
- 親族関係が遠くなっても、直接の本・分家は同族関係としては近い

- 同族組織

- 同族家相互の間に、一定程度の相互作用が維持されている

- 同族団

- 本・分家の間に上下的な関係が認められる場合

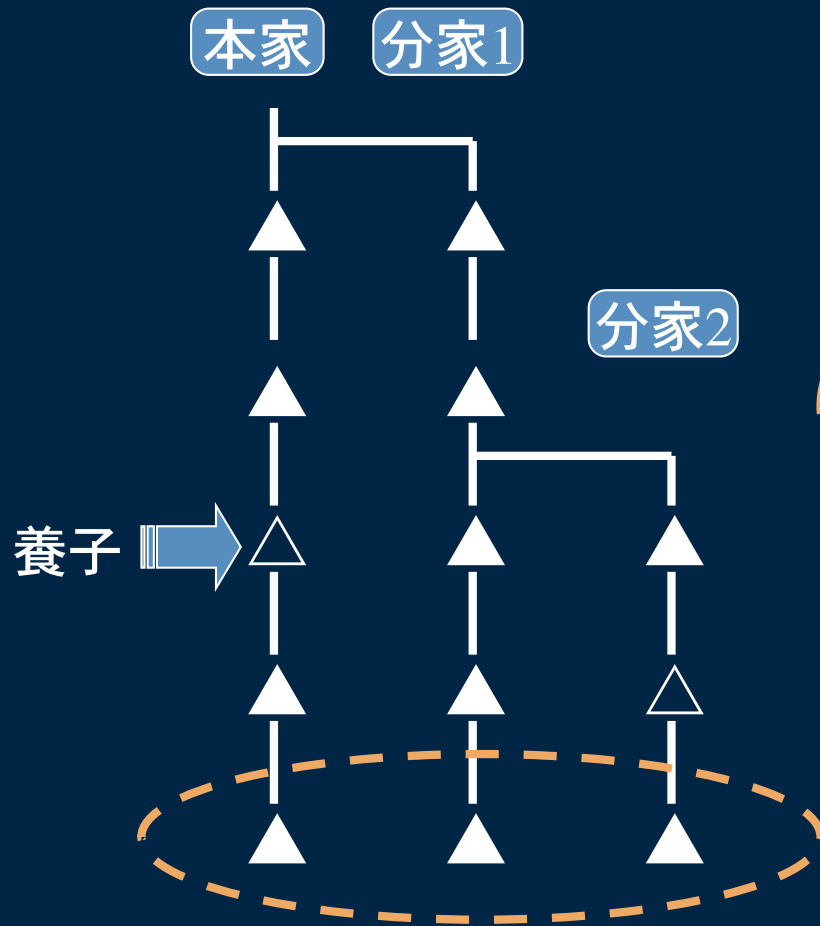
# 対照としての親類

- ・ 親類
  - 構成員の親族関係を根拠にして成立する家相互の関係
  - 構成員相互の親族関係が遠くなれば親類関係も解消される
  - 親類は集団にならない
- ・ 同族と親類は重なるが違う

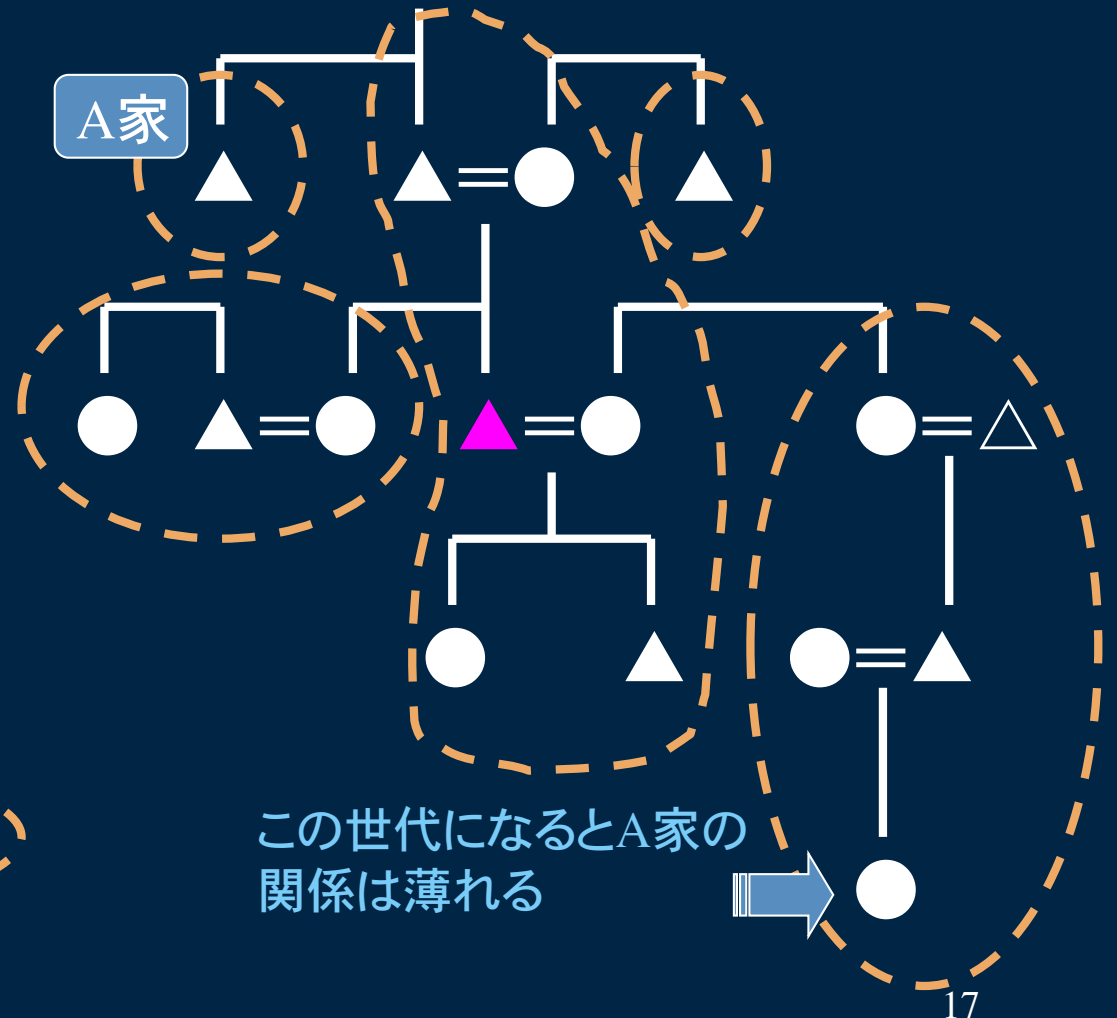


# 同族と親類

## 同族



## 親類



# 参考文献

- 鳥越皓之『家と村の社会学(増補版)』世界思想社、1993年
- 中野卓『商家同族団の研究(第二版)』御茶の水書房、1978年(上)、1981年(下)
- 『有賀喜左衛門著作集』未来社
- 喜多野清一『家と同族の基礎理論』未来社、1976年
- など